

政務活動一覽

議員名： 川部 洋

年月日	活動先			政務活動の内容	関連領収書 番号
	住所	活動先の名称	対応者		
R03/04/02	倉吉市	苫野一徳オンライ ンゼミ	苫野一徳	「インクルーシブについて 語ろう」	4-14
R03/04/06	倉吉市	苫野一徳オンライ ンゼミ	苫野一徳	オンラインゼミ「歓迎会 ・交流会」	4-14
R03/04/15 ～04/16	活動報告（県外）を参照				4-15
R03/04/24	倉吉市	atacLab オンライ ン実践セミナー	苫野一徳	「不登校・いじめ・孤立・ 学業不振などの子どもの 背景にある特別支援ニー ズを探る	4-19
R03/04/26 ～04/27	活動報告（県外）を参照				4-20
R03/04/28	倉吉市	苫野一徳オンライ ンゼミ	苫野一徳	第1回「学校」をつくり 直す	4-14
R03/05/29	倉吉市	atacLab オンライ ン実践セミナー	中邑 賢龍	「特別支援教育のイノベ ーション 3回シリー ズ」	5-17
R03/06/02	倉吉市	atacLab オンライ ン実践セミナー	中邑 賢龍	「特別支援教育のイノベ ーション 3回シリー ズ」	4-19
R03/06/10	倉吉市	苫野一徳オンライ ンゼミ	苫野一徳	本質探求サロン「自由× 学び」	6-12
R03/06/26	倉吉市	苫野一徳オンライ ンゼミ	苫野一徳	第2回「学校」をつくり 直す	6-12
R03/06/30	鳥取県鳥取市 東町1丁目 220	議会棟	① 県土整備 部河川課 ② 農林水産 部農地水 保全課	① 用水堰と治水につい てのレクチャー ② 〃	6-23
R03/07/02	鳥取市	議会棟	鳥取県商工会 連合会、(株)アー チヒーロー 高 橋幸博氏ほか	自転車活用議連勉強会	3-23

R03/07/07	鳥取県鳥取市 東町1丁目 220	議会棟	① 障がい福祉課 ② 人事企画課	① 養護学校における障害児の指導方法やトラブルの対応への福祉的アプローチについて ② 養護学校における人事トラブルについて	7-7
R03/07/07 ~07/08	倉吉市	全国地方議会サミット2021(オンライン)	北川正恭 早大名誉教授ほか	「改革から変革へ デジタルで議会が変革する」	5-19
R03/07/20	鳥取県鳥取市 東町1丁目 220	議会棟	③ 議会事務局 ④ いじめ・不登校総合対策センター	① 常任委員会の県内調査と中部振興議連についての打ち合わせ ② 県内のオルタナティブスクールの取り扱いについてのレクチャー	7-18
R03/07/21	倉吉市	中部総合事務所	中部管内市町 長、国土交通省 倉吉国道河川 事務所長ほか	中部振興議連意見交換会	3-23
R03/07/27 ~07/29	活動報告(県外)を参照				7-19
R03/07/29 ~07/30	鳥取県鳥取市 東町1丁目 220	議会棟	① 地域づくり推進部 県民参画協働課 ② いじめ・不登校総合対策センター ③ 教育委員会事務局 小中学校課	① ふるさと納税を使った団体支援制度について ② 県内のオルタナティブスクールの取り扱いについてのレクチャー ③ //	7-22
R03/08/22	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	第3回「学校」をつくり直す	8-22
R03/09/11	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	「勉強するのは何のため？」	9-14
R03/10/06	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	木村泰子×苫野一徳「よい教師の本質観取」	10-16

R03/10/09	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	「『そもそも学校は何のために存在しているのか?』から校則の本質を考える」	10-16
R03/10/24	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	第4回「学校」をつくり直す	10-16
R03/10/31	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	オンラインゼミ「歓迎会・交流会」	10-16
R03/11/11	岡山県津山市	津山鶴山ホテル	岡山県議会議員、両県執行部	鳥取岡山県境議連総会、意見交換会	3-23 11-15
R03/11/12 ~11/14	活動報告(県外)を参照				11-19
R03/11/13	東京都千代田区	砂防会館	国民大集会参加者	全拉致被害者の即時一括帰国を求める国民大集会	11-21
R03/11/16	鳥取県鳥取市東町1丁目220	議会棟	執行部	政調政審	11-24
R03/11/20	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	学校の“当たり前”を問い直す 生徒と先生の挑戦	11-23
R03/11/22 ~11/25	活動報告(県外)を参照				11-26
R03/12/22	鳥取県鳥取市東町1丁目220	議会棟	① 脱炭素社会推進課 ② 観光交流局	① サイクルツーリズムの推進について ② ”	12-11
R03/12/24	千代田区霞が関2丁目1-3、他	常任委員会要望活動	国土交通省、他	委員会の要望活動での公費対象外分(駐車場代)	12-21
R03/12/26	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	第5回「学校」をつくり直す	12-10
R04/01/24	倉吉市	たよまなカフェ(オンライン)	堀真一郎(学校法人きのくに子どもの村学園 学園長)	「体験学習で学校を変える -きのくに子どものむら学園の挑戦」	1-30
R04/01/28	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	「ユニークな学校」はどう生まれるか?	1-15
R04/02/09	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	「まんがで知るデジタルの学び」読書会	2-12
R04/02/27	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	第6回「学校」をつくり直す	2-12

R04/03/21	倉吉市	苫野一徳オンラインゼミ	苫野一徳	奈須正裕×苫野一徳 個別最適な学びと協働的な学びの歴史と本質	3-10
-----------	-----	-------------	------	--------------------------------	------

- ・交通費（JR等運賃、タクシー代、駐車場代）、宿泊費、会議等への参加費及び会議の開催経費（会場代、講師謝金等）に政務活動費を充当する場合に記載すること。
- ・県外及び国外での政務活動については、別途「活動報告（県外・国外）」を提出すること。

活動報告 (県外・国外)

議員名： 川部 洋

活動事項	大規模風力発電事業とマイクロステップ学習法についての調査
活動年月日	令和3年4月15日～4月16日
場 所	① 岡山県岡山市北区内山下2丁目4-6 ② 岡山県岡山市北区津島中3-1-1
活動の相手方	① 岡山県議会 議員 市村仁氏 CEF 株式会社 代表取締役 鎌田宏之氏 ② 岡山大学大学院 教育学研究科 教授 寺澤孝文氏
活動の目的	① 大規模風力発電について ② マイクロステップ学習の効果の検証について
活動の内容	① 2024年に津山市で事業開始予定の風力発電事業について、岡山県議会の市村議員の紹介で株式会社 CEF の鎌田社長から話を聞いた。 ② マイクロステップ学習の試行導入について、2020年度の効果の検証と2021年度の継続について、岡山大学大学院の寺澤教授と打ち合わせを行った。
活動の結果等	① 鳥取県でも大規模風力発電事業の計画が進んでいるが、建設予定地では景観環境破壊や健康被害の恐れ等の問題をめぐって住民間の軋轢が起きている。 風力発電事業を日本各地で行っている(株)CEFでは、風力発電の必要性和安全性、他地域で設置事例を丁寧に説明し、地元住民との相互理解に努め、親交を深めているとの話を聞いた。 鳥取県内で行われる事業にも、地元への丁寧な対応を事業者に対して求める必要性を痛感したところであり、県としてできることはないのか今後も研究していきたい。 ② 倉吉市のはばたき人権文化センターで開催されている地域未来塾でマイクロステップ学習を試行導入してきた。 その効果の検証を行うとともに、2021年度の継続について打ち合わせを行い、引き続き岡山大学の協力を得ることができた。
関連領収書番号	4-15

活動報告 (県外・国外)

議員名： 川部 洋

活動事項	水道事業における広域連携と官民連携についての研究
活動年月日	令和3年4月26日～4月27日
場 所	① 広島県広島市中区小町1-25タケダ広島ビル2F ② 広島県広島市中区紙屋町1-1-20いよぎん広島ビル6階
活動の相手方	① 株式会社水みらい広島 総務・企画部部长 [redacted] 氏 事業推進部部长 [redacted] 氏 事業推進部営業担当 [redacted] 氏 ② 広島県企業局 水道課課長 坂本聰氏 水道課水道経営グループ 佐藤嘉則氏
活動の目的	人口減少下でも持続可能な水道事業について研究する。
活動の内容	水道事業の広域連携と官民連携の先行事例である広島県の現状と今後について話を聞いた。
活動の結果等	人口減少による財政規模の縮小で、上水道等、公共インフラ・施設の運営と維持管理は非常に厳しい状況にある。 早急に広域化・共同化や官民連携・民営化等について検討していかなければならず、鳥取県においても県内の上下水道事業の広域化・共同化の推進について市町村と研究を進めているところである。 広島県では、公公連携・公民連携を推進することにより、持続可能な水道事業の構築に取り組んでいる。 県が水源を持ち市町村に上水道を供給している広島県と、上下水道が市町村事業である鳥取県とは状況が異なるが、広島県の公公連携・公民連携による持続可能な上水道の在り方を模索している姿は大いに参考になりうる。
関連領収書番号	4-20

活動報告 (県外・国外)

議員名： 川部 洋

活動事項	① 地方における地域おこし協力隊の活動について ② アーティスト・イン・レジデンスとアーティスト支援について
活動年月日	令和3年7月27日～7月29日
場所	① 北海道山越郡長万部町字長万部 411-216 ② 北海道札幌市豊平区平岸2条 17-1-80 天神山緑地内
活動の相手方	① 長万部町役場 長万部町学習文化センター学芸員 中村絵美氏 長万部地域おこし協力隊 ████████氏 ② さっぽろ天神山アートスタジオ ディレクター ████████氏
活動の目的	① 過疎化の進む地域における地域おこし協力隊に対する期待と現実についての研究 ② アーティスト・イン・レジデンス施設におけるアーティスト支援の在り方についての研究
活動の内容	① 長万部町役場長万部町学習文化センターに勤務する学芸員の中村さんと地域おこし協力隊の████さんから地域おこし協力隊の活動についての話を聞いた。 ② さっぽろ天神山アートスタジオの施設を見学し、ディレクターの████さんから話を聞いた。
活動の結果等	① 学芸員の中村さんは現代アーティストとしてAIRを通じて倉吉とも縁があり、地元の長万部に帰って、文化や歴史を生かしたまちづくりに取り組んでいる。地域おこし協力隊の████さんも中村さんと連携しながら、まちおこし事業に取り組んでいるが、役場の職員の理解や協力が弱く、なかなか苦労していた。 地域づくり協力隊の制度は、任期終了後にはそこに移住できるように、収入を得つつ地元で貢献できるような事業を協力隊員に求めているが、特徴のない田舎町ではかなり厳しく、役場の協力体制が弱ければ、移住までつなげるのはさらに難しい。 受け入れる側の課題として、制度の見直しの必要性を感じた。 ② ██████さんは各地のAIRで長年ディレクターを務めてきた経験があり2010年にAIRを通じて知り合ってから、地域とAIRについて、これまでもいろいろと助言を受けてきた。 県立美術館のオープンに向けて、鳥取県のような地域で実施しているAIRに対して、民間が自律的に運営するアートプロジェクトと公的支援の在り方について、どうあるべきか話を聞いていくとともに、今後の鳥取県の地雨域のアートプロジェクトやAIRへの協力を求めて、理解を得た。
関連領収書番号	7-19

活動報告 (県外・国外)

議員名：川部 洋

活動事項	鳥取・岡山県境議員連盟総会
活動年月日	令和3年11月11日(木)
場所	岡山県津山市 津山鶴山ホテル
活動の相手方	鳥取・岡山県境議員連盟議員、鳥取県農林水産部畜産振興局畜産課、岡山県保健福祉部医療推進課及び農林水産部畜産課
活動の目的	鳥取・岡山の県境自治体選出の県議会議員が、共通する課題を共有し、解決に向けて、意見交換と交流を行う。
活動の内容	<p>総会 ・役員改選 令和3年度は岡山県が会長</p> <p>意見交換 ・令和2年度事業報告及び収支決算の承認</p> <p>・県境を越えた医療連携と豚熱対策について、執行部から説明を聞いた後、意見交換を行った。</p>
活動の結果等	<p>鳥取県・岡山県は中国山地を挟んではいるものの、古来より往来があり、交流も盛んであった。その県境にある自治体は、県行政の中心から離れており、様々な事業が後回しになりがちな地域であるが、両県の県境自治体選出の県議会議員が課題を共有することで、互いに施策展開を図っていくために定期的に会を開いている。</p> <p>今回は、定期総会と、共通の課題である「県境を越えた医療連携について」と「豚熱対策について」執行部の説明を聞き、意見交換を行った。</p> <p>医療連携については、平時から県境を越えて受診することが多い地域であり、新型コロナウイルス感染症の拡大時においても、両県ともに県外受診を制限したり、対応について特段の差異を設けていないとの説明を受けた。</p> <p>鳥取県東部と兵庫県北部ではわざわざアナウンスが必要だったにもかかわらず、鳥取県と岡山県の場合は特に何をしたということもなく、通常通りの対応となっていたということは、議連の日頃の交流の成果ばかりとは言えないが、多少の影響はあったものとする。</p> <p>豚熱対策を含む、鳥獣対策については、県境を越えての連携が必要であるが、両県とも、県下全域を野生イノシシ捕獲強化区域に指定して、情報交換しながら取り組んでいるということである。引き続き、感染拡大を防止のために、情報の共有と連携の必要性を感じている。</p>
関連領収書番号	11-15

活動報告 (県外・国外)

議員名： 川部 洋

活動事項	オルタナティブ教育について 全拉致被害者の即時帰国を求める国民大集会への参加
活動年月日	令和3年11月12日～11月14日
場 所	① 兵庫県神崎郡市川町坂戸592 ② 兵庫県西宮市広田町2-15 ③ 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1 ④ 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館
活動の相手方	① 一般財団法人デモクラティックスクールまっくろくろすけ 代表理事 黒田喜美氏 ② 西宮サドベリースクール スタッフ ████████氏 ③ 兵庫県教育委員会事務局 高校教育課学校問題支援室長兼義務教育課副課長 富永和典氏 義務教育課主任指導主事 榎並俊之氏 義務教育課主任指導主事兼主幹 秋田大輔氏 ④ 全拉致被害者の即時帰国を求める国民大集会
活動の目的	① サドベリースクールと公的支援の現状についての研究 ② サドベリースクールと公的支援の現状についての研究 ③ 公教育におけるオルタナティブスクールの扱いについての研究 ④ 全拉致被害者の即時帰国を求める
活動の内容	① デモクラティックスクールまっくろくろすけの代表の黒田さんから話を聞いた。 ② 西宮サドベリースクールの卒業生であり、スタッフ ████████さんから話を聞いた。 ③ 兵庫県教育委員会から県内のオルタナティブスクールの現状について話を聞いた。 ④ 全拉致被害者の即時帰国を求める国民大集会への参加
活動の結果等	① 兵庫県のサドベリースクールを含めた状況と公教育との関係について、現場の声が聞けた。 鳥取県は森のようちえん等、自然保育への支援や私学に対する支援が充実しているのに、オルタナティブスクールに対する支援や理解が充分でないことについて疑問を持たれていた。兵庫県では不登校の児童の居場所の一つとして認められており、少なくとも兵庫県並みにしていかなければならないと感じた。 ② " " ③ オルタナティブスクールに対する県教委の姿勢について話を聞いたが、鳥取県教委に気を使っているのか、正直なところ、歯切れのよい説明ではなかった。 確保法により不登校対応が学校復帰前提としないことになった中で、兵庫県教委が不登校児童への民間施設ガイドラインにサドベリースクールを紹介しているのは事実であり、鳥取県教委と比

	<p>較して、このことだけでも素晴らしい。 鳥取県教委においてもこれ位まで持っていきたい。</p> <p>④ 拉致被害者の解放は国の責務であるが、ひとり一人の国民がしっかりと声をあげていくことが必要であることを改めて認識した。</p>
関連領収書番号	11-19 , 11-21

活動報告 (県外・国外)

議員名： 川部 洋

活動事項	① 大分県の文化芸術振興と県立美術館の役割について ② BEPPU PROJECT のアートによる地域振興について ③ 佐賀県のふるさと納税を使った団体支援制度について ④ 熊本県のふるさと納税を使った団体支援制度について
活動年月日	令和3年11月22日～11月25日
場 所	① 大分県大分市寿町2-1 ② 大分県別府市野口元町2-35 菅建材ビル2階 ③ 佐賀県佐賀市城内1丁目1-59 ④ 熊本県熊本市中央区水前寺6-18-1
活動の相手方	① 公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 館長兼美術館管理課長 友永智男氏 ② NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事（当時） 山出淳也氏 常務理事・事務局長 横山恭子氏 ③ 佐賀県 県民環境部副部長 岩永幸三氏 ④ 熊本県 環境生活部県民生活局男女参画・協働推進課主幹 平山尚久氏 総務部市町村・税務局税務課税務企画班主幹 宮本浩氏
活動の目的	① 大分県の文化芸術振興と県立美術館の役割についての研究 ② 民間の活動団体のアートによる地域振興と行政との関わりについての研究 ③ ふるさと納税を使った団体支援制度についての研究 ④ "
活動の内容	① 大分県立美術館を見学し、館長の友永さんから話を聞いた。 ② BEPPU PROJECT の代表（当時）の山出さんから話を聞き、横山さんに実際の活動現場を案内してもらった。 ③ 制度を設計した県民環境部副部長の岩永さんから話を聞いた。 ④ 制度を担当している協働推進課の平山さんと、ふるさと納税の担当の税務課の宮本さんから話を聞いた。
活動の結果等	① 大分県立美術館は大分市のまちなかに位置し、市民・県民の暮らしに非常に身近な場所にある。 社会教育施設と位置づけは維持しながら、文化芸術振興を担う施設として知事部局が所管しており、県芸術文化スポーツ振興財団に運営を委託し、商工や観光部門との連携をかなり意識した運営を行っていた。 全国初のPFIによる県立美術館である鳥取県立美術館も、教育機能の充実も重要だが、商工業や観光との連携を推進し、アートによる地域振興を担う必要性を強く感じた。 ② BEPPU PROJECT の山出さんは、鳥取藝住祭が縁で親交が始まり、

	<p>その活動をずっと注目していた。</p> <p>今回改めて、団体の立ち上げから現在の取り組みまでを十分な時間を取って説明いただき、嫉妬を覚えるくらい、こんなことができたなら楽しいだろうと感じた。</p> <p>文化芸術振興は公的な支援がないと民間だけではなかなか立ち行かないが、BEPPU PROJECTは、行政からもうまく大きな資金を調達し、いい関係を保ちながら、地元の経済界や住民との連携を密にして、地元でお金が循環するようなアートによる地域の活性化に成果を上げている。見習いたいことだらけである。</p> <p>これは、山出さんの個人的な力量によるところも大きいと思われるが、アート関係者の満足だけに終わらせないように、経済活動にも成果が上がるように気を配ってきた事業の進め方は大いに参考になった。</p> <p>③ NPO等の団体活動への支援として、事業に対する補助だけでなく、運営に対する補助を求める声大きい。</p> <p>そうした中、佐賀県がふるさと納税を活用した団体支援の制度を始めていて、成果を上げていることを耳にして、鳥取県でも導入できないか話を聞きに行った。</p> <p>説明者の岩永さんは制度を設計されただけあって、制度について思いを熱く聞かせていただいた。</p> <p>制度的には団体の自助努力によるところは大きいですが、自前で資金調達できる制度としては必要な制度だと考え、鳥取県での制度導入を提案し、2022年から鳥取県も同様な制度が始まった。</p> <p>④ 佐賀県の制度を参考にして熊本県でもふるさと納税を利用した団体支援制度を始めていたので、制度比較のために話を聞きに行った。</p> <p>しかしながら、佐賀県の制度とは基本的な制度設計思想が異なり、担当者からも団体を支援しようという思いがあまり感じられず、プラスの意味の参考にはならなかった。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>11-26</p>